

そして「感じが良かった」は高年令層に多く、逆に「不愉快だった」は十九才以下に多かつた。批評も厳しく、「不親切」「愛嬌不足」「店に入るとすぐ寄ってくる」「方言で応答する」「商品知識が薄い」「正札販売が不徹底」「デパート店員間の私語が多い」など、痛いところを衝いている。

「五木の子守歌」がトツプ

熊本は民謡のふるさと。その数多い民謡は、旅館で、あるいは貸切バスの中で、選手たちに覚えられて全国に散つていった。

なかでも「五木の子守唄」は別表の「熊本の民謡で好きなものは」の項目でもわかるように「おてもやん」その他を大きく引きはなしている。そして地域的に見ても北海道から中国までの諸地域で高い割合を占めている。沖繩ではこの唄のもつ哀調に対する共感の度合いは薄いようであつた。

逆に「おてもやん」は沖繩と中国で三〇%前後の高い比率を示している。地元九州は二一%で最低。これに反し「田原坂」はその勇壮な歌調とメロディが、九州の土地柄を反映してか、九州が最も多く、関東がこれに次いでいるのも面白い。

年令層から見ると「おてもやん」は高年令層と若い人々に好かれ、新興の民謡とも云うべき「五木の子守唄」と「阿蘇の恋唄」はともに若い人々に人気がある。古くからの民謡「田原坂」や「五十四万石」は、やはり高年令層に人気があるのもうなずける。

魅せられた阿蘇山

別表のほかに「阿蘇山の印象」「山の施設」「バスガイドの説明内容」あるいは「今度熊本に来たら何処を見たいか」などのアンケートも行ったが、紙面の都合で全部を紹介できないのは惜しい。

要するに、阿蘇にはじめて登つたというのが八一%もあり、火口や広大な草原と展望が非常に印象に残つたと答えている。

施設は「これで良い」というのが五八%あつて、まあまあだが、「施設の規模が小さい。あるいは整備が悪い」というのが三六%もあつたことは考えさせられる。

バスガイドはなかなか好評であつた。「感じが良い」が七六%、「普通」が二三%。別にアンケート用紙の末尾に「バスガイドが特に好印象であつた」というのを、沢山の人が特記している程で、観光客としてはずいぶんいい結果であつた。

そして「もう一度阿蘇に来たい」という人は九四%にもおよび、国体役員選手を阿蘇へ招待した意義も大いにあつた。



変らんのは言葉だけ
御所浦村の「衛生革命」

下水溝も都会地なみ……★

天草郡御所浦村といえは、上島、下島から引き離されたように、不知火海に浮かぶいくつかの島々から成つている。人口は九千人程だが、大部分が半農半漁。近年は沿岸漁業はサツパリで、丘の上まで耕やしてつくる麦と甘藷も収入と云える程のものではない。

部落に舟を着けてみよう。どこの漁村でもそうあるように、狭い土地に家が密集し、露路は入り組み、何となくゴチャゴチャした感じ。ところが……である。その露路も、下水溝も、隅から隅まで、どこまで行つてもコンクリートが打つてあり、都会地なみだ。否それ以上だろう。しかも見事に掃除がゆきとゞき、特に下水溝などにはヌレヌレした汚物など全く附いていない。漁村特有のあの臭気もない。ハエも飛んでこない。これはお世辞でもホメすぎでもない。御所浦村はいま、衛生革命、ともいふべき時期をおくっているのである。

山へ追われたお坊さん……★

話は終戦の年にさかのぼる。出稼ぎの運搬船の乗員が、大牟田から赤痢をおみやげへに貰つてきた。これがパッと伝染したからたまらない。毎日毎日葬式の連続という程でもなかつたらうが一日に三軒葬式をした日もあつたという。

そのためお寺の坊さんは毎日のように赤痢で死んだ人の家でお経を読んだ。

この奥さんは婦人会長さん。家庭や部落に赤痢菌を持ち込まれては大変と、ご主人を家に入らずに、裏山の小屋に住んで貰つた。坊さんは十七日間山小屋からお葬式に通勤(?)したという。

こんなことがあつてからというもの、村全体が衛生には非常に気をつかうようになった。

こうしたこともあつたためか、村当局も村議会も衛生面については特に熱心だ。まず環境の整備から、というわけで、

わけである。また、「今度熊本へ来たなら何処を見たいか」の問いに対しては、天草、阿蘇、球磨川下りなどが断然多く、ついで各地の温泉群となつている。

<熊本みかん> うまいが選果が悪い 熊本みかん取引懇談会から



☆☆☆☆☆ 県と県果実連の主催で、熊本みかん取引懇談会が、去る11月25日と28日に、それぞれ小倉及び東京でひらかれました。現地荷受機関や小売仲買代表からは、熊本みかんについて、つぎのような要望や批評がなされました。——写真は挨拶する寺本知事と県側代表——

※ 県では、このアンケートから数多くの貴重な示唆と警鐘を聞くことができた。今後はこれを十分施策に生かして、「観光熊本」の名に恥ぢないものとしていかねばならない。

(資料・観光課 要約・広報課)

- 味は良い。だが規格外のもの混入も少々あるので選果を厳重に。
- 他県の同規格のものどくらべると劣る。無理して規格に合わせず、悪いものは等級を下げるがよい。ハケ先は心配いらない。
- 統計計画出荷をすれば、相場も自ずから安定する。
- 共販体制を強化しなければならぬ。今年から軌道に乗り、市場側としても心強い。
- ダンボールが普及して結構だが、押し痛みも少々あるので荷造りに注意。
- ダンボールになつてから、末端の小売店まで売り易くなり、取扱いも増加の傾向にある。
- 年末年始の贈答用として、化粧箱詰も研究してほしい。
- ヘタが長いとふれ合つてキズをつけるから、ヘタは短く切ること。(産業館)

簡易水道の増設、露路や下水溝のコンクリート張り、全村民の寄生虫一斉駆除、母子センターや村立診療所の設置など、やつきばやに実行に移していった。こと衛生に関しては、乏しい予算の中から何とかヒネリ出した。

立ち上つた婦人たち……★

村の衛生活動の指導的立場にあるのは地区衛生協議会々長の尾田さん。この尾田さんが本渡の保険所から講師を招いてくる。あるいは毎晩幻燈機をぶらさげて、島から島へ衛生講話をして廻つた。婦人会では役場から消毒薬を出して貰い、定期的に便所や下水溝の消毒を今も続けている。元気な奥さんは、馴れない人に交替させられるのもメンドウとばかり、二人で粉霧機をかついで部落全部をかけ廻つた。(とにかくこの奥さん達は威勢がいい。最近各部落には婦人消防団も結成した程だ。)

毎月一日と十五日は清掃日。——といつても「清潔というこつが習慣になると、毎日毎日が清掃日です。そりや衛生についての考え方も昔の漁師部落とは変わりましたよ。」「変らんとは言葉ひとつ、ていよいよりますたい。」と奥さん達は潮焼けした顔を見合わせてハッハッハッと笑つた。

まだ残る問題点……★

だがまだまだ問題も多い。家のわきの肥料壺、ブタ小屋、チリ捨て場など、この狭い土地の中でどこに移すか? 保健婦さんがいないのでせひ一人は欲しい。子供は一戸平均六人半位というから、家族計画ももつと進めなければならぬ……

……等々。だから平坦地の町村から見れば、遅れているかに見えるかもしれない。だが、この離島の貧しさの中で進めてきた衛生活動の効果は「変らんのは言葉だけ」というあの奥さんの言葉が短的に物語っているのではなからうか。

(衛生部 広報課)

生活の「新しい波」

- 年末年始はこうやつて……
- (1) クリスマスツリーやパーティーは自粛しましょう。
 - (2) 門松と松の生け花はやめて、国旗を掲げましょう。
 - (3) 贈答はやめて、貯蓄しましょう。
 - (4) 回礼、宴会はやめて、家庭で楽しくすごしましょう。
 - (5) お正月は正月だけにしましょう。

第10回 旅の新生活運動

■押さず押されず
■列を乱さぬよう

年末年始はのり物が混みあいます。ゆずりあつて、車内を明るく……